



「人それぞれに落ち着くスタイルがある。日本古来の和の文化は、ごく自然に目線の高さが同じになり、心も和む」

photo 藤田佳久

井草の香りにつつまれて

井草の香りが漂うお部屋があります。ドアを開けると、ござの上にじゅうたんが敷かれ、きれいに洗った真っ白なカバーをした座布団が2枚置いてあります。靴を脱いでお邪魔をすると、「休んで行きなさい」とおもてなしをしてくれます。

「残り少ない人生だから、好きなようにやりたい」と、病室の中を工夫して自分の居場所を作りました。もう帰らない家の公共料金を整理したり、洗濯をしたり常に自分のできることを工夫して生活をしています。最近では、病棟の廊下に季節の絵を飾っていますが、お気に入り絵の絵を用意してくれます。何かできないかと、看護師の食べるものも心配しているようです。

思い返せば、過去にもご自分の病状はさて置き、毎週金曜日の喫茶の時間のイベントを企画する方がいました。彼の残したフルートを、スタッフが大切に演奏をし、腕を上げています。また、つらい闘病のなかでも好きな絵を描いて看護師に見せるのを楽しみにしている方もいました。目を閉じると、彼の絵が浮かび覧覧会のように思い出せます。かつてサクソ奏者をしていた方は、音楽を奏でる看護師に、「音楽は自分が楽しまなきゃだめだ」と言い、リズムをとって教えてくれました。彼のおかげで、ピアノ・フルート・クラリネットの3重奏ができるようになりました。

ホスピスで過ごされた方たちから、私たちは癒され元気をもらい育てて頂いています。これからの季節に、春の風にとってたくさんさんの顔が思い出されます。

吉村 良子・文
函館おしま病院
ホスピス病棟看護師長



よしむら りょうこ
社会福祉法人函館厚生院函館
厚生院看護専門学校卒業。
平成16年函館おしま病院勤務。
平成22年12月より同病院ホス
ピス病棟看護師長に就任し、現
在に至る。